

群像新人文学賞「美しい顔」関連報道について

及び当該作品全文無料公開のお知らせ

株式会社講談社（本社：東京都文京区）は、6月29日以降つづく群像新人文学賞当選作「美しい顔」についての各社報道等に関して、下記の通りコメントを発表いたします。同時に、当該作品を弊社ホームページに全文無料公開することをお知らせいたします。

「群像」2018年6月号に掲載した第61回群像新人文学賞当選作、北条裕子氏の「美しい顔」における小誌の参考文献未表示の過失についてお詫びいたします。本件については7月6日発売の同8月号巻末に告知を掲載します。告知文面は別紙の通りです。

6月29日以降の一部報道により、本作と著者について中傷、誹謗等がインターネット上で散見され、盗用や剽窃などという誤った認識を与える文言まで飛び交う事態となりました。

これらの不当な扱いによって、本作と著者およびそのご家族、新人文学賞選考にあたった多くの関係者の名誉が著しく傷つけられたことに対し、強い憤りを持つとともに、厳重に抗議いたします。

今回の問題は参考文献の未表示、および本作中の被災地の描写における一部の記述の類似に限定されると考えております。その類似は作品の根幹にかかわるものではなく、著作権法にかかわる盗用や剽窃などには一切あたりません。

石井光太氏著『遺体 震災、津波の果てに』との類似点は弊社の調査により発見し、石井氏に事情説明に赴きました。以後、石井氏および同氏の代理人である新潮社に対して、著者ととものできる限りの誠意を尽くして協議を行ってまいりました。

しかし、協議を続けている中で、6月29日の新潮社声明において、「単に参考文献として記載して解決する問題ではない」と、小説という表現形態そのものを否定するようなコメントを併記して発表されたことに、著者北条氏は大きな衝撃と深い悲しみを覚え、編集部は強い憤りを抱いております。

北条裕子氏の作家としての将来性とその小説作品「美しい顔」が持つ優れた文学性は、新人文学賞選考において確たる信により見出されたものです。上記の問題を含んだ上でも、本作の志向する文学の核心と、作品の価値が損なわれることはありません。

おもしろくて、ためになる

講談社

2018年7月3日

今後弊社としては、甚大なダメージを受けた著者の尊厳を守るため、また小説「美しい顔」の評価を広く読者と社会に問うため、近日中に本作を弊社ホームページ上で全文無料公開いたします。

なお、他の参考文献の著者および関係者の方々に対しても、誠意をもって協議させていただく所存です。

また本件に関する詳細な経緯説明も、追ってご報告させていただきます。

2018年7月3日

【群像八月号告知】

小誌二〇一八年六月号 P. 8～P. 75 に掲載した第六十一回群像新入文学賞当選作「美しい顔」(北条裕子)において描かれた震災直後の被災地の様子は、石井光太著『遺体 震災、津波の果てに』(新潮社)に大きな示唆を受けたものです。主要参考文献として掲載号に明記すべきところ、編集部 の 過失により未表記でした。

文献の扱いに配慮を欠き、類似した表現が生じてしまったことを、石井氏及び関係各位にお詫び申し上げます。

また、東日本大震災の直後に釜石の遺体安置所で御尽力された方々に対する配慮が足りず、結果としてご不快な思いをさせたことを重ねてお詫び申し上げます。

本作の主な参考文献は以下の通りです。

北条裕子「美しい顔」群像二〇一八年六月号 主要参考文献

『遺体 震災、津波の果てに』石井光太(新潮社)

『3. 1 1 慟哭の記録 71 人が体感した大津波・原発・巨大地震』金菱清編／東北学院大学 震災の記録プロジェクト(新曜社)

『メディアが震えた テレビ・ラジオと東日本大震災』丹羽美之／藤田真文編(東京大学出版会)

『ふたたび、ここから 東日本大震災・石巻の人たちの50日間』池上正樹(ポプラ社)

文藝春秋二〇一一年八月臨時増刊号『つなみ 被災地のこども80人の作文集』(企画・取材・構成 森健／文藝春秋)